

平成26年度

「教育の力」発信事業

# 湖国の親子へ贈る言葉

く今、子どもと向き合うあなたへ贈るメッセージく

## 母が私を叱ってくれる理由

私の母は私の憧れの人です。母はとても努力家で四才の弟のめんどうを見ながらも私を塾へ通わせるために働いてくれています。ですが、私は思春期でそんな優しい母に、友人関係や受験のことでやつたりしてしまうことがあります。

そんな時、母は厳しく私に接します。私は余計に腹が立って泣いてしまうこともあります。しばらくして私が反省して謝った時、母はさつきとはまるで違うとても優しい表情で、「今お母さんが言っていることに腹が立つかもしれないけど、大人になった時あのとときああしてればよかったって後悔させたくないから厳しく言うんだよ。お母さんはあなたが大好きだから怒るんだよ。」

私はその母の言葉に涙が止まりませんでした。

## 君の応援団長より

お母さんは、いつも君が心配でした。君が明日学校で困らぬ様、のびのび過ごせる様に、学校の時間割準備や宿題を君がクリアするまで何度か口出しする事にしていました。それがお母さんの仕事だとも思っていました。

今日、君は「わかったる。」と強く反論しました。君の横顔が急にたくましく見えました。

それで、やっと今日お母さんは気付いたのです。君にもう口出しは要らない。君ならもうできるんだと。もっともっと君を信じたらいいのだと。

明日からは、心配や口出しではなく、少し頼もしくなった君に似合う方法で君を応援することにします。お母さんはいつでも君の応援団長です。

## 明日への希望

私は、息子に『生きる』とは楽しい世界だよ」ということを伝えたい思いで、二歳頃から、夜寝かし付ける時に

「明日は何をして遊ぼうか？ いっぱい楽しもうね。」と話しかけていると、いつの間にか息子が、夜のあいさつに

「明日も元気に起きようね！ おやすみなさい。」と言うようになりました。何となくでも小さい時から明日への希望を持って生活している様で、うれしかったのを覚えています。

十一歳になった今では「おやすみ。」の一言ですが、心の片すみには、その気持ちを忘れず、明るい未来に希望を持って、生きていくことを願っています。

## 大事に育てやんせ

「大事に育てやんせ」私が一人目の子を出産した時、人生の大先輩がポツリとくださった言葉です。余りにも普通の、あたり前の言葉ですが、普段言葉少ななその方から発せられたその時のやさしいトーンが、それまで「子」だった私を「親」にしてくれたような気がしました。

同時に、この子を大事に育てなければ、この子以上に私自身が傷つくのだということ暗に教えてもらったような気がしました。多くの場合、子育ては皮肉にも親自身がまだまだ未熟な時に、その子供にとって一番大事な成長期を越えなければいけません。

親としての未熟さを補うことができる唯一の方法は、日々愛情をもってその子に向かい、大事に大事に育てることだけだと思います。

あの頃の私に 今 伝えたい

長男が幼稚園の発表会の日、舞台に立つ我が子をビデオのレンズ越しに見つめながら呆然としていた。周りの子ども達は、とても楽しそうに歌いながら踊っているのに、長男だけ何も動かずに立っている。「なぜみんなと同じように踊れないの？」涙があふれた。

その日の夜、仕事から帰宅した夫に話しながら、また泣いた。不安で、不安で、押しつぶされそう。

あれから十二年。高校生になった長男の学園祭の日、私の目の前には楽しそうに友達と一緒に踊る姿があった。私は笑顔でいっぱいになった。子育ては、子どもの可能性を信じてじっと見守り続けること。

あの頃の私に今、伝えたい。心配しないで。他の子と比べないで。大丈夫。泣かないで笑って。

そのうち、そのうち

そのうちできる、そのうち治る、そのうち慣れる。煮つまった時にはそうやって心を静めてください。心を落ち着かせながら、なぜできないのかな、どこで困っているのかな、なぜ泣いているのかな、なぜ怒っているのかな、と頭で考え、目と心で観察し、原因を見つけるのです。時には周囲の人の力も借りて……。

原因や答えが見つからない時は、以前の自分や小さかった頃の子どもを思い出してください。成長のあとが見えて、心の中が温かくなります。

子育ては自分の中の親育て。汗も涙も時間もたっぷり必要です。

「そのうち、そのうち」と唱えながら、あせらず、落ち込まず、ゆっくりと楽しんでほしいと思います。

## 子どもに感謝

子育て・・・

仕事に追われ、がむしゃらだった

かけ忘れた言葉もいっぱいある

寂しい思いをさせてきた

仕事を辞めたとき

子どもたちからもらった手紙

ねぎらいと感謝の言葉

ずっと見ていてくれたと気づかされた

こちらこそありがとう

今は子どもたちも親となり

我が子を大事に育てている

何よりも嬉しく、ありがたい

子育ては自分育て

残りの人生を前向きに歩もう

子どもたちが見ていてくれると思うから

五十九才 女性

## 言葉の力

誰一人、知人のいない滋賀に他県から嫁いできた三十余年前。新居で子どもが生まれ、すっかり子育てせねばと頑張っていた私でした。

夫は仕事が忙しく、一人で悩みを抱えていた時、田んぼで農作業をしている義母の姿を見て、思わず私は畦を走り、慣れない土地での子育ての不安を話したことがありました。

その時の義母の一言、「どんとしやい！どうあろう！」大丈夫を意味する強くて優しい方言。その言葉には、全てを包み込む大らかさが満ちあふれていました。

それ以降、私の子育ては「どうあろう！」マイノドで進み、それが息子たちにも伝わって、個性豊かに成長してくれたと思っています。私にとって、周囲の温かい支えがあってこそその子育てでした。

五十九才 女性



平成 26 年(2014 年)12 月発行  
滋賀県教育委員会